

侍従川で近年減少傾向にある生きものたち

2024年6月2日



イシマキガイ

2023年度工事による



クロベンケイガニ

2023年度工事による



ビリンゴ

2023年度工事による



ウナギ

2023年度工事により減少か？



ヤマアカガエル

池の埋め立てによる



ニホンアマガエル

モリアオガエル放流による？
*生息地は一ヶ所のみ



ヒバカリ

2019年度中流域全域工事による



ウキゴリ

2019年度中流域全域工事による



アズマヒキガエル

詳細は不明
大道小学校裏山のコンクリート化
以来減少傾向と思われる



アシハラガニ

下流域アシ原焼失による



2023年浚渫工事後の様子

2023年度工事により減少種は復活するかもしれないが経過観察中
2019年度の中流域全域工事にて減少したヒバカリ及びウキゴリは
2024年6月現在なかなか復活していないのが現状

【侍従川の浚渫工事における自然保護のお願い】

侍従川で昨年から 2 月にかけて浚渫工事が行われました。洪水に備えて堆積した土砂を削り取るという工事ですが、堆積した土砂を取り除いた後に重機を使って川底をさらに深く掘りアシやマコモを根こそぎ取り去るということが行われていました。ご存知のように、アシやマコモは水を浄化して生き物の生息環境を整えるために植えたもので川の自然を維持するために必要な植物です。

侍従川には、ホタル、カルガモ、カワセミ、ハグロトンボ、ハゼ、ウナギ、アユ、モクズガニなどのたくさんの生き物が棲んでいます。侍従川を工事する人たちは、川の自然の保護を考慮して作業をしていただくようお願いしたいと思います。

廣瀬 隆夫

だぼはぜ通信第65号（2024年1号）より転載

【朝比奈北市民の森のカエル産卵状況調査報告】

朝比奈北市民の森農地にある、過去にヤマアカガエル産卵実績のある池が、農地を借りて作業している方によって埋められてしまい、残っている池が一つのみとなってしまいました…その池も3/2現在産卵はなし。農作業をしていた方に聞くと、ここ数年はカエルの声を聞いていないとのことでした。

同じ朝比奈北市民の森の別なエリアにある池では、アズマヒキガエルの繁殖行動が見られました。1ペアと1♂にメイトコール(オスの鳴き声)が確認できました。

今冬は暖冬で、各地ではすでにヤマアカガエルの卵塊は見られているので、当地のヤマアカガエルの安否が心配です。

侍従川流域での他のヤマアカガエルの産卵が見られる場所は、朝比奈小学校内ビオトープと朝比奈切通し入口の道路公団の敷地内と、希に侍従川中流域内…先述の朝比奈北市民の森、大道小学校内ビオトープではみられなくなったかもしれないです(後日再調査します)。

アズマヒキガエルは市街地にも見られ、個人宅の庭の池でも産卵するため、掌握が難しいです。侍従川中流域(明戸橋～長島橋)でも産卵が見られますが、現在行われている土砂掘削工事により見られなくなる可能性が高いので、この件も併せてカエルの卵情報がありましたらお知らせください。

山田 陽治

だぼはぜ通信第65号（2024年1号）より転載

【今後の保護活動へのアプローチについて】

生きものの保全や保護の第一歩はそれらの生きものやその周囲をとりまく環境について知ってもらう、興味を持ってもらうことだと思います。興味を持ってもらえれば生きものへの影響を最小限にした治水への提案も通りやすくなったり、生きもの豊かな環境を残していきたいと思う方々も増えていき、次の保全というステップへも繋がっていくでしょう。

2013年の浚渫の際はその前後の年を通してハゼ類の卵塊調査を実施したことでハゼ類が浚渫が行われないうちに避難することが分かり、エリアを区切り数年に分けて浚渫をすることでハゼ類への影響を抑えることができる可能性が分かりました。(2017年生態学会にてポスター発表もしました。)これらの情報は治水の関係者には再三流していますが、2019年度の中流域全域工事や昨年度(2023年度)の水草を地下茎ごと抜かれてしまう結果など現実はなかなか厳しいものです。

多くの方々に生きもの豊かな侍従川であってほしいと望んでいただくためには侍従川にどのような環境がありどのような生きものがあるのか伝えていくことが今後重要になっていくでしょう。そのためにも日ごろから生きもの現状を把握し記録していくことは大切です。会員の皆様も身近な自然で出会った生きもの情報(希少・普通種関係なく)をLINEグループ等で共有いただけると幸いです。

金子 英司

2023 年度に確認された生きものたち

2024 年 6 月 2 日

だぼはぜ通信第61～64号より

～4月～

チチブ、ウキゴリ、スミウキゴリ、シマヨシノボリ、ゴクラクハゼ、ウロハゼ、アユ、ボラ、ウナギ*、マメコブシガニ、ホンビノスガイ、アサリ、アカニシ、ミゾレヌマエビ、スジエビモドキ、アリジゴク、ツクツクボウシとアブラゼミの抜け殻(昨年からの忘れ物…)、オオカマキリの卵、バッタ、トホシテントウの幼虫

～5月～

ゴクラクハゼ、ミナミテナガエビ

～6月～

フクロウ(鳴き声)、ヘイケボタル、アライグマ(目視)、ヒラタクワガタ、コクワガタ、ノコギリクワガタ、キマダラミヤマカミキリ

～7月～

マハゼ、チチブ、スミウキゴリ、アベハゼ、ウナギ*、クロベンケイガニ、ミナミテナガエビ、ミシシッピアカミミガメ、ドブネズミ死体

～8月～

メダカ、マツモムシ、クロベンケイガニ

～9月～

ボラ、キチヌ、メダカ、ウキゴリ、チチブ、スミウキゴリ、アベハゼ、ヒナハゼ、ビリンゴ、モクズガニ、ミゾレヌマエビ、ユビナガスジエビ、テナガエビ、クロベンケイガニ、コシボソヤンマ(ヤゴ)、ヤマサナエ(ヤゴ)、シオカラトンボ(ヤゴ)

～10月～

ミナミテナガエビ、アカテガニ

～12月～

チチブ、ウロハゼ、マハゼ、シマヨシノボリ、スミウキゴリ、クロメダカ?、ヒメダカ、スズキ(目視)、アユ(目視)、ミナミテナガエビ、テナガエビ、ヤマトヌマエビ、モクズガニ、カワニナ、イシマキガイ、カルガモ(目視)、オオバン(目視)、スミウキゴリ卵塊、ヤマサナエ、カワゲラ、モンキマメゲンゴロウ、ガガンボ幼虫

～1月～

ウロハゼ、チチブ、ウキゴリ、スミウキゴリ、シマヨシノボリ、テナガエビ、ミゾレヌマエビ、コシボソヤンマ(ヤゴ)、シオカラトンボ(ヤゴ)、ジョウビタキ、ウキゴリと見られる卵塊

～2月～

ホトケドジョウ*、オオバン、カワウ、ハクセキレイ、スズガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、アオサギ、イソヒヨドリ、キセキレイ、カルガモ、ユリカモメ、アオサギ、コサギ、トビ、カワラバト、ツグミ、ハシボソガラス、オオシオカラトンボ(ヤゴ)、ヤマサナエ(ヤゴ)、オニヤンマ(ヤゴ)、ショウジョウトンボ(ヤゴ)

 要注意種、 侍従川流域での個体数が少ない種、 外来種、* 国指定の絶滅危惧種